

# 第 33 回 幹 事 会

平成19年2月22日

日 本 学 術 会 議

# 配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第32回幹事会議事要旨

資料 5 諸報告事項

資料 6 審議事項

参考 1 日本学術会議第 150 回総会日程概要（案）

参考 2 日本学術会議における今後の予定

## 第 3 3 回幹事会議事次第

日 時 平成 1 9 年 2 月 2 2 日 (木) 1 4 : 0 0 ~

議 題

### I 非公開審議事項

#### 1 委員会関係

- ・ 国際委員会における小分科会の設置及び委員の決定 (提案 1)
- ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員会の委員の決定 (提案 2)
- ・ 第二部関連 分野別委員会 (課題別) 分科会の設置期間の延長 (提案 3)
- ・ 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会の運営要綱の改正及び委員の任期の延長並びに同委員会政策提言調査小委員会の設置期間の延長及び委員の任期の延長 (提案 4)

#### 2 外部推薦依頼

- ・ 委員候補者の推薦 (提案 5)
- ・ 本田賞受賞候補者の推薦 (提案 6)

### II 前回幹事会以降の諸報告

### III 審議事項

#### 1 会員の派遣等

- ・ G8 学術会議への会員の派遣 (提案 7)
- ・ Royal Society 主催ナノテクワークショップへの会員の派遣 (提案 8)
- ・ ICSU Young Scientists Conference 2007 への会員の派遣 (提案 9)

#### 2 委員会等主催シンポジウムの開催

- ・ IGBP 国際シンポジウムの開催 (提案 10)
- ・ シンポジウム「これからの日本の学協会のあり方」ー学協会を巡る変化とその対応ー (提案 11)
- ・ ものづくりイノベーションシンポジウムの開催 (提案 12)
- ・ 公開シンポジウム「畜産と食育」の開催 (提案 13)
- ・ 第 5 3 回構造工学シンポジウムの開催 (提案 14)
- ・ シンポジウム「科学技術立国の礎」ー日本の“見る技術”を再興するーの開催 (提案 15)
- ・ 公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割」の開催 (提案 16)
- ・ 市民公開講座『見るよろこび、聞くよろこびーAVD の克服に向けてー』 (提案 17)

#### 3 後援

- ・ 国内会議 (提案 18)

### IV その他

## 第 3 2 回幹事会議事要旨

日 時 平成19年1月25日（木） 14：00～15：30

場 所 日本学術会議大会議室

出席者 （会長） 金澤 一郎

（副会長） 浅島 誠、鈴木興太郎、土居 範久

（第一部） 広渡 清吾、佐藤 学、江原由美子、小林 良彰

（第二部） 唐木 英明、北島 政樹、鷺谷いづみ、山本 雅

（第三部） 小林 敏雄、河野 長、大垣眞一郎

ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会  
委員長 位田 隆一

---

（事務局長） 谷口 隆司

（事務局次長） 須江 雅彦

（課長） 會田 雅人、佐野 美博

（参事官） 神代 浩、信濃 正範、村田 啓子

### 審議事項等

- 1 事務局の人事異動に伴う挨拶があった。
- 2 非公開審議事項について審議が行われた。また、ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会の位田委員長、教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会の佐藤副委員長から中間報告があり、意見交換が行われた。
- 3 今後の日本学術会議の運営について意見交換が行われた。
- 4 審議事項について審議が行われた。
  - （1）イノベーション推進検討委員会の対外報告「科学者コミュニティが描く未来の社会」について金澤会長から説明があり、審議の結果、承認された。
  - （2）第150回総会日程（案）が承認され、特別講演者の候補者の人選が行われた。
  - （3）その他の審議事項も原案通り承認された。
- 5 その他事項として、
  - （1）「分野別委員会に設置された分科会等の運営について」が合意された。
  - （2）平成19年2月13日に開催される連合部会の議事次第案が報告された。

## 第32回幹事会議事次第

日時 平成19年1月25日(木) 14:00～

### 議題 I 非公開審議事項

#### 1 委員会関係

- ・ 国際委員会における分科会の委員の決定(提案1)
- ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員会の委員の決定(提案2)
- ・ ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会の運営要綱の改正及び委員の任期の延長(提案3)

#### 2 外部推薦依頼

- ・ 委員候補者の推薦(提案4)

#### 3 要望(案)

- ・ ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会  
「ヒト由来試料・情報を用いる研究の生命倫理—ヒト由来試料・情報バンクの整備について—」(参考)
- ・ 教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会  
「これからの教師の科学的教養と教員養成の在り方について」(参考)

#### 4 その他

### II 前回幹事会以降の諸報告

### III 審議事項

#### 1 対外報告(案)

- ・ イノベーション推進検討委員会「科学者コミュニティが描く未来の社会」(提案5)

#### 2 総会日程

- ・ 第150回総会日程(案)(提案6)

#### 3 団体の指定

- ・ 日本学術会議協力学術研究団体の指定(提案7)

#### 4 代表派遣等

- ・ インターアカデミーカウンシル(IAP)執行委員会への会員の派遣(提案8)
- ・ 学協会の機能強化方策についての調査・研究に係る海外実地調査への派遣(提案9)

#### 5 日本学術会議地区会議講演会及び委員会主催シンポジウム等の開催

- ・ 東北地区(提案10)
- ・ 中国・四国地区(提案11)
- ・ 北海道地区(提案12)
- ・ シンポジウム「地域研究と情報学：新たな地平を拓く」の開催(提案13)
- ・ シンポジウム「地域研究の最前線—知の創成」の開催(提案14)
- ・ 第1回基礎法学総合シンポジウム「法的制度としての私と公をめぐって」の開催(提案15)
- ・ 第56回理論応用学講演会(提案16)
- ・ シンポジウム「CAWSES/IHY workshop」(提案17)
- ・ 情報学シンポジウム「情報学の未来」の開催(提案18)
- ・ シンポジウム「社会福祉教育の近未来」(提案19)
- ・ 公開シンポジウム「情報技術による持続可能な食料生産システムの展望—東アジアにおける科学技術戦略—」の開催(提案20)
- ・ 公開シンポジウム環境工学連合講演会「現代社会が直面する課題と環境工学」の開催(提案21)

#### 6 後援

- ・ 国内会議(提案22)

### IV その他

# 諸 報 告 事 項

第 1	前回幹事会以降の経過報告	P. 1
1	報告のとりまとめ及び手交	P. 1
2	会長談話の発表	P. 1
3	会長代理の指名	P. 1
4	審議付託等	P. 1
5	賞等の推薦	P. 1
6	会長等出席行事	P. 2
7	委員会委員の辞任	P. 2
第 2	各部・各委員会等報告	P. 3
1	部会の開催とその議題	P. 3
2	機能別委員会の開催とその議題	P. 4
3	分野別委員会の開催とその議題	P. 5
4	課題別委員会の開催とその議題	P. 9
第 3	総合科学技術会議報告	P. 10

## 第1 前回幹事会以降の経過報告

### 1 報告のとりまとめ及び手交

平成19年1月25日、イノベーション検討委員会報告「科学者コミュニティが描く未来の社会」をとりまとめ、高市大臣へ手交した。

### 2 会長談話の発表

平成19年1月26日、「テレビ番組等における「科学的」実験について」を発表した。

### 3 会長代理の指名

会長が海外出張につき、日本学術会議法第9条第2項の規定に基づき、下記のとおり副会長を会長代理に指名した。

期 間	用 務 先	会 長 代 理
1月28日～ 2月2日	アムステルダム	土居副会長

### 4 審議付託等

件 名	申 請 者	審 議 ・ 付 託 先
こども環境学学会2007大会 (横浜)『こども・まち・お とな』の後援について	こども環境学会会長	第二部 第三部
こども環境学会主催特別シ ンポジウム「いじめと環境」 の後援について	こども環境学会会長	第二部 第三部
京都大学大学院情報学研究 科公開講座「夢のある情報 教育に向けて－高校と大学 の連携をいかに進めるか －」の後援について	京都大学大学院情報学研究 科研究 科長	情報学委員会

### 5 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
世界食糧賞	各部	推薦見送り
BALZAN賞	各部	推薦見送り
2007年 TRIESTE SCIENCE 賞	各部	推薦見送り
2007年 TWAS 賞	各部	推薦見送り
本田賞	各部	第三部より推薦有

## 6 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
1 月 25 日	総合科学技術会議と日本学術会議の連携強化の在り方に関する懇談会（第6回）	金澤会長 浅島副会長 鈴木副会長 谷口事務局長
2 月 15 日	学術と政策に関する意見交換会（第3回）	金澤会長 鈴木副会長 佐藤第一部副部長 鷲谷第二部幹事 小林第三部副部長 北澤 イノベーション推進検討委員会副委員長・第三部会員 谷口事務局長

## 7 委員会委員の辞任

日本学術会議会則第28条第2項の規定により、下記委員会等に所属していた委員の辞任が同委員会において承認されましたので、報告します。

- 第20期 地球惑星科学委員会国際対応分科会地形小委員会  
町田 洋（平成19年1月27日付）  
小口 高（平成19年1月27日付）
- 科学と社会委員会科学力増進分科会科学技術リテラシー小委員会  
小林 信一（平成19年1月29日付）
- 地球惑星科学委員会社会貢献分科会  
富樫 茂子（平成19年1月29日付）
- 基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS 分科会  
山本 雅（平成19年2月7日付）
- 法学委員会法学系大学院分科会  
廣瀬 和子（平成19年2月13日付）
- 法学委員会「不正等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会  
二宮 周平（平成19年2月19日付）
- 地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会  
岡田 尚武（平成19年2月22日付）

## 第2. 各部・各委員会等報告

### 1 部会の開催とその議題

(1) 連合部会 (第2回) (2月13日)

- ①「討論—多元化する知・循環と自省」

(2) 第一部会 (第7回) (2月13日)

①報告事項

- 1) 第一部からの報告 2) 幹事会からの報告 3) 各委員会からの報告

②審議事項

- 1) 機能別委員会等の再編について  
2) 課題別委員会について  
3) 他機関との連携による日本学術会議の活動について  
4) 日本学術会議協力学術研究団体の指定について  
5) 学術刊行物の指定に係る審査協力について  
6) 平成19年度日本学術会議主催公開講演会(第1、2回)の企画案について  
7) その他

(3) 第二部会 (第7回) (2月13日)

②報告事項

- 1) 第二部からの報告 2) 各委員会からの報告

①審議事項

- 1) 薬学委員会 専門薬剤師分科会の新規設置について  
2) 第二部関連 課題別分科会の設置期間の延長について  
3) 夏季部会(第二部会の地方開催)について  
4) 機能別委員会等の再編について  
5) 他機関等との連携による日本学術会議の活動について  
6) 課題別委員会について  
7) 平成19年度日本学術会議主催公開講演会(第1、2回)の企画案について  
8) 日本学術会議協力学術研究団体の指定について  
9) 学術刊行物の指定に係る審査協力について  
③その他

(4) 第三部会 (第7回) (2月13日)

①分野別委員会の活動について

②地方部会について

③第三部会の活動について

④機能別委員会等の再編について

⑤課題別委員会の新規課題について

⑥他機関との連携による日本学術会議の活動について

⑦その他

## 2 機能別委員会の開催とその議題

### (1) 選考委員会 (第17回) (2月16日)

- ①推薦及び選考の枠組みについて ②運営内規の改正について

### (2) 科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会 (第3回) (年2月9日)

- ① スケジュールの確認について ② ヒアリング対象団体 ③ヒアリング調査項目  
④ 海外実地調査について ⑤ シンポジウムについて

### (3) 科学者委員会広報分科会 (第15回) (1月31日)

- ① 前回 (12/13) の議事要旨
- ② 今後の編集方針
  - ・表紙デザイン (人物掲載) (案)
  - ・原稿依頼・校了等進捗状況
  - ・4月号以降の特集
  - ・各コーナー執筆者の推薦
- ③ 「学術の動向」の平成19年度買上げ方針について
- ④ その他 (今後の会議日程の確認等)

### (4) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第6回) (2月1日)

- ① 日本学術振興会における男女共同参画の取り組みについて ② アンケート調査について ③ 提言「ジェンダー視点が拓く学術と社会の未来」について ④ 分科会情報のホームページ掲載について ⑤ その他 (今後の活動予定、次回委員会の日程)

### (5) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第10回) (2月13日)

- ①サイエンスアゴラの実施結果について ②科学技術リテラシー小委員会の活動状況について ③サイエンスカフェについて ④その他

### (6) 国際委員会 (第13回) (2月13日)

- ①持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議分科会 (報告) ②アジア学術会議分科会・小分科会 (報告) ③ I A C理事会 (報告) ④平成19年度代表派遣  
⑤G8学術会議 ⑥その他

### (7) 国際委員会アジア学術会議分科会第7回 SCA 会合担当小分科会

(第2回) (1月18日)

- ① 新任委員の紹介
- ② 「第7回アジア学術会議」について
  - 1) 共同プロジェクトについて
  - 2) 合同シンポジウムについて
  - 3) プログラムについて

- ③ プレパラトリーミーティングについて ④ その他

(8) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会  
(第2回) (1月23日)

- ① 会議テーマの検討 ② プログラムの検討 ③ 講演者の検討 ④ 今後の進め方、スケジュールの確認 ⑤ 次回分科会日程の決定

(9) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会  
(第3回) (2月13日)

- ① 会議テーマの検討 ② プログラムの検討 ③ 講演者の検討 ④ 今後の進め方、スケジュールの確認 ⑤ 次回分科会日程の決定

### 3 分野別委員会の開催とその議題

#### 第一部関係

(1) 法学委員会 「グローバル化と法」分科会 (第2回) (1月26日)

- ① 「グローバル化と法」に関する意見交換 ② その他

(2) 社会学委員会 ジェンダー学分科会 (第2回) (1月29日)

- ① ジェンダー学と今後の取組

報告1: 「第17期、第18期におけるジェンダーに係る取組について」

報告2: 「第19期におけるジェンダーに係る取組及び第20期課題別委員会『学術とジェンダー』について」

- ② その他

(3) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第4回) (2月1日)

- ① 地域情報のデータベースについて (講演) ② その他

(4) 経済学委員会 IEA分科会 (第1回) (2月6日)

- ① 役員を選出について ② 今後の活動方針について ③ その他

(5) 法学委員会 法学系大学院分科会 (第3回) (2月13日)

- ① 分科会委員の変更について ② 法学系研究者養成のあり方に関するアンケートについて ③ その他

(6) 法学委員会 「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会

(第2回) (2月19日)

- ① 不平等・格差社会とセーフティ・ネットについて、各分野からの情報提供 ② 分科会の運営について ③ その他

(7) 社会学委員会 社会理論分科会 (第2回) (2月20日)

- ① 社会理論の今日的状況について ② シンポジウム等の行事、社会的提言の仕方

ついて ③その他

## 第二部関係

(1) **臨床医学委員会 終末期医療分科会** (第3回) (1月25日)

①日本緩和医療学会の鎮静に関するガイドラインについて ②終末期医療に関する国民の意識調査について ③リビングウィルに関する問題点について ④その他

(2) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 自然人類学分科会**

(第2回) (1月26日)

①本分科会主催のシンポジウムについて ②本分科会での検討課題の選択について ③その他

(3) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 禁煙社会の実現分科会**

(第6回) (1月29日)

①JTについて ②その他

(4) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 自然史・古生物学分科会**

(第3回) (1月30日)

①自然史研究教育体制の高度化について ②社会教育の民間開放の影響について ③博物館法制度改正の現状について ④その他

(5) **臨床医学委員会 医療制度分科会** (第3回) (1月31日)

①勧告について ②意見交換 ③その他

(6) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会** (第4回) (1月31日)

①生活科学シンポジウムについて ②生活科学コンソーシアム(仮称)について ③その他

(7) **生産農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会**

(第2回) (2月5日)

①今後の活動について ②その他

(8) **臨床医学委員会 感覚器分科会** (第4回) (2月5日)

①感覚器医学ロードマップについて ②市民公開講座について ③その他

(9) **基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS分科会** (第3回) (2月7日)

①日本微生物連盟(仮称)の設立とその参加学会について ②IUMS札幌の準備状況と国内組織委員会について ③その他

(10) **臨床医学委員会 身体機能回復分科会** (第3回) (2月7日)

①「心筋」「皮膚」「骨」における再生医療に関しての日本及び世界の現状について ②その他

- (11) **基礎医学委員会 病態医科学分科会** (第2回) (2月15日)  
 ①我が国における病理学・法医学領域の人材育成について ②病理診断およびバイオリソースとしての病理検体について ③病理学と他の基礎医学研究分野との連携について ④その他
- (12) **健康・生活科学委員会** (第6回) (2月16日)  
 ①新委員の紹介 ②各分科会からの報告 ③今後の活動について ④その他
- (13) **臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会** (第2回) (2月19日)  
 ①【テーマ】臨床医学会の社会的責任と裁量の範囲  
 【議題】生殖医療、移植医療における問題について  
 ②その他
- (14) **生産農学委員会 農学教育分科会** (第4回) (2月20日)  
 ①農学教育の課題と今後の在り方(その取りまとめ)について ②その他
- (15) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生態科学分科会**  
 (第4回) (2月20日)  
 ①学術会議全体の動き、関連分科会の報告について ②大学における生態学教育の現状について ③東京都生物教育研究会関係のシンポジウムの報告について ④環境プロジェクトチームの活動報告について ⑤その他
- (16) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物科学分科会** (第2回) (2月21日)  
 ①若手研究者のキャリアについて ②日本からの研究成果の発信について  
 ③生物科学学会連合との共催シンポジウムについて ④その他

### 第三部関係

- (1) **機械工学委員会 機械工学ディシプリン分科会** (第1回) (1月29日)  
 ①委員長等の選出について ②分科会活動計画について ③その他
- (2) **情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会** (第1回) (1月29日)  
 ①委員長等の選出について ②情報セキュリティ研究の動向 ③ディペンダビリティ研究の動向 ④人材育成 ⑤今後取り組むべき課題について ⑥その他
- (3) **地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会** (第5回) (1月29日)  
 ①分科会の主要な課題について ②その他
- (4) **地球惑星科学委員会 IGU分科会** (第1回) (1月29日)  
 ①委員長及び幹事の選出について ②IGUの動静と委員会について  
 ③CCHDへの対応について ④IYPEへの対応について  
 ⑤地理オリンピックについて ⑥その他

- (5) **総合工学委員会 総合工学企画分科会** (第2回) (2月5日)  
①総合工学企画分科会委員の確認 ②分科会設置に関する報告 ③新規分科会活動方法について ④意思の表出について ⑤総合工学企画分科会の今後の運営方法について ⑥新分科会の設置について ⑦その他
- (6) **基礎生物学委員会・臨床医学委員会・物理学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会合同 重力加速度依存現象の科学・生命科学検討分科会** (第3回) (2月6日)  
①意思の表出について ②外部報告案の審議 ③その他
- (7) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会**  
(第1回) (2月8日)  
①総合工学委員会の活動と分科会設置の経緯 ②意思の表出について ③出席者紹介 ④委員長等の選出 ⑤分科会の活動について ⑥その他
- (8) **総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会**  
(第1回) (2月13日)  
①総合工学委員会の活動と分科会設置の経緯 ②意思の表出について ③委員長等の選出 ④分科会実行計画の検討 ⑤今後の作業工程 ⑥その他
- (9) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会** (第4回) (2月14日)  
①今後の活動内容について ②その他
- (10) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 住宅・社会基盤整備と民生用エネルギー問題に関する検討小委員会** (第3回) (2月14日)  
①今後の活動方針について ②その他
- (11) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 次世代の社会的共通資産に関する研究推進戦略小委員会** (第2回) (2月14日)  
①今後の活動方針について ②その他
- (12) **情報学委員会 E-サイエンス分科会** (第1回) (2月15日)  
①委員長等の選出について ②E-サイエンスの動向把握  
③今後の分科会活動等について ④その他
- (13) **環境学委員会 環境科学分科会** (第1回) (2月16日)  
①分科会委員長等の選出 ②今後の分科会について ③その他
- (14) **電気電子工学委員会 電気電子工学のあり方検討分科会** (第2回) (2月16日)  
①今後の活動内容について ②その他
- (15) **電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会** (第2回) (2月16日)  
①今後の活動内容について ②その他

- (16) 電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会 (第2回) (2月16日)  
①今後の活動内容について ②その他
- (17) 電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会 (第2回) (2月16日)  
①今後の活動内容について ②その他
- (18) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会 (第3回) (2月20日)  
①「自然環境の保全再生に関わる河川環境政策」講演と意見交換 ②その他
- (19) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する  
安全・安心・リスク検討分科会 (第1回) (2月20日)  
①総合工学委員会の活動と分科会設置の経緯 ②意思の表出について ③委員長等  
の選出 ④分科会の活動について ⑤小委員会の設置について ⑥その他
- (20) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第4回) (2月21日)  
①活動方針について ②その他
- (21) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第8回) (2月22日)  
①今後の活動内容について ②その他

#### 4 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者コミュニティと知の統合委員会 (第6回) (1月30日)  
①報告書 (案) について ②その他
- (2) ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会  
(第7回) (2月2日)  
①要望 (案) について ②その他
- (3) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会拡大役員会  
(第7回) (2月6日)  
①報告書 (案) について ②その他
- (4) 科学者コミュニティと知の統合委員会 役員会 (第6回) (2月9日)  
①報告書 (案) について ②その他
- (6) エネルギーと地球温暖化に関する検討委員会 (第5回) (2月19日)  
①報告書 (案) について ②その他

### 第3 総合科学技術会議報告

#### 1 本会議

##### \*第63回

1月30日

- (1) 第3期科学技術基本計画に基づく強力な科学技術振興のための「推進プラン2007」
- (2) 最近の科学技術の動向

#### 2 専門調査会

##### \*第32回 知的財産戦略専門調査会

2月6日

- (1) 今後の進め方について
- (2) 知的財産戦略について
- (3) ライフサイエンス分野におけるリサーチツール特許の使用の円滑化に関する指針(案)について

##### \*第41回 生命倫理専門調査会

2月20日

- (1) ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針改正案について
- (2) 総合科学技術会議意見具申「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」を受けての各省における検討状況について

#### 3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 2月 1日
- ・ 2月15日 \*会長出席
- ・ 2月22日 \*会長出席

# 審 議 事 項

(派遣等)

- 提案 7 G8 学術会議への会員の派遣 P. 1  
提案 8 Royal Society 主催ナノテクワークショップへの会員の派遣 P. 2  
提案 9 ICSU Young Scientists Conference2007 への会員の派遣 P. 5

(委員会等主催シンポジウム)

- 提案 10 IGBP 国際シンポジウムの開催 P. 8  
提案 11 シンポジウム「これからの日本の学協会のありかた」－学協会を巡る変化  
とその対応－ (仮題) P. 10  
提案 12 ものづくりイノベーションシンポジウムの開催 P. 11  
提案 13 公開シンポジウム「畜産と食育」の開催 P. 12  
提案 14 第53回構造工学シンポジウムの開催 P. 13  
提案 15 シンポジウム「科学技術立国の礎」－日本の“見る技術”を再興する－  
の開催 P. 14  
提案 16 公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割」の開催 P. 15  
提案 17 市民公開講座『見るよろこび、聞くよろこび－AVD の克服に向けて－』 P. 17

(後援)

- 提案 18 国内会議の後援 P. 19

7	
幹事会	33

## 提 案

### G8 学術会議への会員の派遣

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 G8 学術会議へ別紙のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 金澤一郎（会長）  
土居範久（副会長）
- 5 派遣期間 平成19年3月15日（木）～16日（金）
- 6 派遣場所 ハレ（ドイツ）

8	
幹事会	33

## 提 案

### Royal Society 主催ナノテクワークショップへの会員の派遣

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 Royal Society 主催ナノテクワークショップへ別紙のとおり会  
員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 市原 学（連携会員）
- 5 派遣期間 平成18年3月21日（水）
- 6 派遣場所 ドルトムント（ドイツ）

## Draft outline for nanomaterials workshop to contribute to OECD

### 1) Background

The Royal Society, along with a number of other national academies, is keen to encourage the responsible development of nanomaterials so that the benefits of this exciting area of science and technology can be realised with minimum risk to humans and the environment. Many of the challenges inherent in this, such as the underpinning research strategies and the development of agreed methodologies for safety testing, require an international approach. The Society believes that to be successful such an approach needs to be multi-stakeholder, including government, industry, NGOs and academics. OECD seems to be the only organisation that is seeking international agreement in this area. It has established a working group on manufactured nanomaterials that met for the first time in October 2006. While dominated by government officials it does have a number of industry and NGO participants. The Royal Society has been encouraging OECD and the relevant UK Government department to consider how they can include academic experts in the relevant field.

### 2) OECD workshop in Dortmund

The OECD working party has identified 6 projects and established subgroups to work on each of these projects:

(1) Development of a Database on Human Health and Environmental Safety Research (EHS)

**(2) EHS Research Strategies on Manufactured Nanomaterials**

**(3) Safety Testing of a Representative Set of Nanoparticles**

**(4) Manufactured Nanomaterials and Test Guidelines**

(5) Co-operation on Voluntary Schemes/ Programmes

(6) Co-operation on Risk Assessments and exposure measurements

Subgroups 2, 3, 4 (which have closely linked objectives) will be meeting in Dortmund, Germany on 22-23 March 2007 to discuss the projects ahead of a meeting of the full working party in April 2006. The Royal Society suggested to the UK delegation that this would provide an excellent opportunity for the working group members to network with key scientists in the field. The OECD and the German hosts are enthusiastic about the proposal to hold an experts workshop the day before the meeting.

### 3) Proposed joint academies workshop

*Aims* To ensure that members of the OECD working group are aware of the scientific opinion in the areas under discussion & to encourage an ongoing dialogue between the academic experts and the working groups.

*Venue* A room has been booked in the same location as (and the day before) the formal OECD workshop on 21 March.

*Format* We are still considering the format. One suggestion has been a testimony/expert witness format with experts asked to address specific questions for a policy audience, to inform decisions by the three subgroups. Plenty of time would be allowed for the working group members to question the experts. We will consider whether the sessions should be structured by subgroup title or likely impact (eg impact on the skin, lungs, environment etc). The impact of the meeting could be increased if, at the end, the Chairs of the OECD subgroups could be persuaded to each briefly outline what they are taking away from the meeting. This will ensure that they have listened all the way through and also allow the experts to correct any misunderstanding.

*Resource requirements* There currently is no OECD budget for this event so we are hoping that each Academy will fund its country's experts to attend. However it is likely that many of the experts will not be Fellows of the Academies (as is the case in the UK) as this is an applied area of research. Staff at the Leopoldina will liaise with the German government hosts.

*Participants* We plan to invite more experts than will be able to give evidence, although they will all contribute to the discussion. Given resource constraints and the need to keep the event manageable, we would anticipate no more than 15 experts attending. They would be balanced by country and discipline. The main countries are those: i) participating in the OECD subgroups; ii) that leading experts in the area; and iii) are have academies that are active in this area (the UK, Germany, Japan, the Netherlands and the US). These will be contacted in the first instance.

*Report* We are still considering whether a report would be useful and whether it would form part of the DECD working group documents.

23/01/07

For more details, please contact Kate O'Shea: e-mail: [kate.oshea@royalsoc.ac.uk](mailto:kate.oshea@royalsoc.ac.uk); tel +44 (0)20 7451 2674; fax +44 (0)20 7451 2692

9	
幹事会	33

## 提 案

### ICSU Young Scientists Conference2007 への会員の派遣

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ICSU Young Scientists Conference2007 へ別紙のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 西山暁義（連携会員、第一部推薦）  
谷垣健二（連携会員、第二部推薦）  
鴨川 仁（連携会員、第三部推薦）  
財城真寿美（連携会員、第三部推薦）
- 5 派遣期間 平成19年4月4日（水）～6日（金）
- 6 派遣場所 リンダウ（ドイツ）



**Global Scientific Challenges:  
Perspectives from Young Scientists**  
**An international conference celebrating 75 years of ICSU**  
4-6 April 2007  
Lindau, Germany.

**Background**

From sustainable development, to emerging disease epidemics, the interaction of humankind with its environment lies at the core of a myriad of complex global challenges. Scientific research is a critical resource for addressing these challenges, whether that be via the development of new technologies or the promotion of better policies. At the same time, the speed of scientific and technological innovation and concerns about the potential misuse of science are creating tensions at the interface between scientists and society. New approaches are necessary for the planning, conduct, and communication of international research and a closer partnership needs to be built between science and society as a whole.

**Aim**

This conference will bring together approximately two hundred young scientists from across the world, and from different disciplines, to discuss and debate some of the key challenges for science in the 21<sup>st</sup> century. The conference is designed to attract and stimulate the interests of those who will play a leading role in international research over future decades. Through the critical assessment of specific case studies and experiences, the conference will serve as a space for reflection on the future conduct of science in the context of a rapidly changing world.

The conference will serve as a forum for young scientists to:

- Exchange knowledge and experience with their peers in an interdisciplinary and intercultural setting
- Debate key issues at the interface between science and society
- Identify and discuss emerging obstacles and challenges for the scientist of tomorrow

It will provide a unique international networking opportunity that is quite distinct from the usual discipline or topic-focussed meeting.

**Themes**

The conference be structured around a matrix of key issues, related to the conduct of science, and cross-cutting scientific topics.

**Key issues**

International Cooperation  
 Transdisciplinary Collaboration  
 Public Engagement  
 Science for Policy  
 Scientific Freedom and Responsibilities  
 Science and the Private Sector

**Scientific topics**

Environmental Change  
 Sustainable Development  
 Human Health  
 Basic Research and Discovery

The selected scientific topics are deliberately broad and inclusive and are characterised by the need for international and interdisciplinary cooperation.

**Format**

The conference will include a number of keynote addresses and panel discussions, involving a mix of senior and junior scientists. However, the majority of the time will be devoted to interactive, small-group presentations and discussions, so that each participant has an opportunity to share his or her own experiences and perspectives. The meeting will be structured to deliberately mix people from diverse scientific and geographic backgrounds, whilst respecting their interest in the selected scientific topics.

**Participant profile**

Participants should ideally be under 35 years old (with an absolute age limit of 40 years). Participants should have a PhD or MSc or have completed at least 2 years of post-graduate research studies, and must have demonstrated an active interest in at least one of the scientific topics and/or cross-cutting issues listed above. Efforts will be made to include scientists who work in a variety of professional settings, including academia, government laboratories, the private sector, science policy/mangement and science communication. English will be the working language for the conference.

All ICSU National Members (105), International Scientific Unions (29), and Interdisciplinary Bodies (18) are being invited to nominate and sponsor a young scientist to attend the conference. Additional invitees and speakers will be selected by the Conference Planning Committee.<sup>1</sup> Financial support will be available only for National Members from developing countries that have identified a participant and cannot provide sponsorship.

---

<sup>1</sup> The Conference Planning Committee is made up of the following members: Gaëll Mainguy, Chair (World Academy of Young Scientists) France; Ravinder Bhatia (the Scholar Ship) UK; Juan Pablo Pardo Guerra (Young Pugwash) Mexico [Edinburgh]; Rehana Jauhangeer (UNESCO-L'Oreal Fellow) Mauritius [London]; Daniele Cesano (LEAD Fellow) Italy; Mustapha Mokrane, Laurie Geller & Belle Dumé (ICSU Secretariat).

10	
幹事会	33

## 提 案

### IGBP 国際シンポジウムの開催

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること。

## 記

- (1) 会議名 『地球と人類の未来ーアジアから考える』  
ー環境資源のワイズユースによる地域コミュニティーの再生と持続可能な地  
域づくりをめざしてー
- (2) 日 程 平成19年3月24日（土）～27日（火） （4日間）
- (3) 会 場 ホテルサンルーラル大潟（秋田県南秋田郡大潟村北1-3）
- (4) 主 催 日本学術会議（国際委員会）、International Geosphere-Biosphere Programme (IGBP)秋  
田県、国際日本文化研究センター  
Analysis, Integration and Modeling of the Earth (AIMES)  
Integrated History and future Of People on Earth (IHOPE)
- (5) 共 催 環境省、財団法人地球環境戦略機構
- (6) 後 援 経済産業省、国土交通省、文部科学省
- (6) プログラム 別紙1参照

2007. 1. 30現在

IGBP国際シンポジウム

## 『地球と人類の未来－アジアから考える』

－環境資源のワイズユースによる地域コミュニティーの再生と持続可能な地域づくりめざして－

日時：平成19年3月24日(土)～27日(火)(4日間)

会場：ホテルサンルーラル大湯(秋田県南秋田郡)

## プログラム (予定)

3月24日(土) - 第1日目 -

- 9:00 ～ 9:20 開会挨拶  
9:20 ～ 12:00 公開セッション1 『目潟の年縞が語る地球の過去・現在・未来』  
13:30 ～ 14:00 挨拶  
14:00 ～ 18:00 公開セッション2 『年縞が語る文明崩壊と環境変動』  
20:00 ～ ナイトセッション1 『年縞が語る文明崩壊と環境変動』をめぐって

3月25日(日) - 第2日目 -

- 9:00 ～ 12:00 公開セッション3 『アジアの伝統文化の弾力性と持続性』  
13:30 ～ 18:00 公開セッション4  
『地域の伝統文化と地域資源のワイズユース：秋田から世界の未来を考える』  
20:00 ～ ナイトセッション2 『アジアの伝統文化の弾力性と持続性』をめぐって

3月26日(月) - 第3日目 -

- 9:00 ～ 12:00 公開セッション5 『地球環境とアジアの未来』  
13:30 ～ 18:00 公開セッション6 『持続型文明社会に向って』  
20:00 ～ ナイトセッション3 『地球と人類の未来』をめぐって

3月27日(火) - 第4日目 -

( 農山村視察 )

- 18:00 ～ 閉会挨拶 等

1 1	
幹事会	3 3

## 提 案

### シンポジウム「これからの日本の学協会のありかた」 －学協会を巡る変化とその対応－（仮題）

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長  
2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

- 1 主 催 日本学術会議科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会  
2 日 時 平成19年3月16日（金） 13：30～16：30  
3 会 場 日本学術会議6階会議室

## 4プログラム

- 13:30－13:35 開会の挨拶  
浅島 誠（日本学術会議副会長）
- 13:35－14:05 基調講演「これからの日本の学協会のありかた」（仮題）  
黒川 清（日本学術会議連携会員）
- 14:05－14:35 講演1「公益法人改革と学協会について」（仮題）  
范 揚恭（内閣官房行政改革推進本部事務局企画調整官）
- 14:35－15:05 報告 「学協会の機能強化方策についての調査・研究」の中間報告  
（株）三菱総合研究所担当者
- 15:05－15:20 休憩
- 15:20－15:50 講演2「科学技術の振興と学協会について」（仮題）  
永野 博（独）科学技術振興機構理事
- 15:50－16:20 講演3「日本化学連合の発足について」（仮題）  
岩村 秀（日本大学教授・日本学術会議連携会員）
- 16:20－16:30 閉会のあいさつ  
浅島 誠（日本学術会議科学者委員会  
学協会の機能強化方策検討分科会委員長）

以上

1 2	
幹事会	3 3

## 提 案

### ものづくりイノベーションシンポジウムの開催

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

### 記

1. 主 催 日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会
2. 日 時 平成19年3月27日（火）13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議6階 6-C会議室
4. 議事次第
  - 1) 開催趣旨  
古川勇二（会員、機械工学委員会委員、生産科学分科会委員長、  
東京農工大学大学院教授 技術経営研究科長）
  - 2) 基調スピーチ
    - ・中島尚正（会員、機械工学委員会委員長、（独）産業技術総合研究所 理事）  
「産業活動の重心移動を目指すイノベーション」
    - ・柘植綾夫（会員、機械工学委員会委員、三菱重工業株式会社 特別顧問、  
前総合科学技術会議議員）  
「第三期科学技術基本計画における”ものづくり技術”分野の推進戦略と  
課題」
    - ・有信睦弘（連携会員、機械工学委員会委員、株式会社 東芝 執行役常務  
経営監査部長）  
「イノベーションに向けたもの／こと作り」
    - ・新井民夫（連携会員、機械工学委員会委員、生産学術連合代表、  
東京大学大学院 工学研究科教授）  
「製造業のサービス化によるイノベーションの推進」
    - ・須賀唯知（会員、機械工学委員会委員、エコデザイン学会連合代表、  
東京大学大学院 工学研究科教授）  
「エコデザインの動向」
  - 3) パネル討論（約2時間）  
コーディネーター：古川勇二  
パネリスト：上記5名に機械工学委員会生産科学分科会委員

1 3	
幹事会	3 3

## 提 案

### 公開シンポジウム「畜産と食育」の開催

1. 提 案 者 生産農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

### 公開シンポジウム「畜産と食育」の開催について

1. 主 催 日本学術会議生産農学委員会 畜産学分科会、(社)日本畜産学会
2. 日 時 平成19年3月29日(木) 15:00~17:00
3. 場 所 麻布大学百周年ホール
4. 分科会開催 畜産学分科会を上記麻布大学にて開催
5. 次 第

#### 開催趣旨

子供たちをはじめ日本人が、食材を生産する農業、特に畜産の理解、地域で生産される食材と食事についての理解、農業、畜産が地域の環境を作り、保全していることの理解、を深めることを目的とする。さらに食の栄養学的な重要性、安全性、楽しさを参加者とともに情報交換し、食育の重要性を認識しようとする。

開会挨拶：矢野 秀雄（京都大学大学院農学研究科教授、日本学術会議会員、  
日本学術会議畜産学分科会委員長）

司 会：金井 幸雄（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授、  
日本学術会議連携会員、日本学術会議畜産学分科会委員）

#### I 講 演（15:10 ~ 16:30）

- 1) 青木 隆夫（(有)ベネット社長 農産物販路開拓コンサルタント）  
「農業生産者の消費拡大に対する取り組み」
- 2) 阿南 久（コープとうきょう理事）  
「生産者と消費者の架け橋として」
- 3) 関谷 敏彦（神奈川県畜産技術センター普及指導部）  
「地産地消に向けて一生産サイドから」
- 4) 大井 桂子（綾瀬市教育総務部学校給食課）  
「学校給食における地産地消」

#### II 総合討論とまとめ（16:30~16:55）

鎌田 寿彦（東京農工大学共生科学技術研究院・生命農学部門教授、日本畜産学会副  
理事長、日本学術会議連携会員、日本学術会議畜産学分科会委員）

閉会挨拶：泉水 直人（日本大学生物資源科学部動物資源科学科教授、日本畜産学会理事  
長、日本学術会議連携会員、日本学術会議畜産学分科会委員）

14	
幹事会	33

## 提 案

### 第53回構造工学シンポジウムの開催

1. 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

### 記

1. 主 催 日本学術会議土木工学・建築学委員会、日本建築学会、土木学会
2. 日 時 平成19年4月19日（木）～20日（金）
3. 場 所 日本学術会議講堂及び会議室
4. 議事次第

#### ○4月19日

9：15～15：00

土木工学部門、建築学部門各講演

15：15～16：15

特別講演会

講師：本城勇介（岐阜大学 教授）

題目：「性能設計概念に基づいた設計コードの開発：Code platform ver.1 と基礎  
構造物等の設計原則」

司会：中島章典（宇都宮大学教授、土木学会構造工学論文集編集小委員委員長）

16：25～18：15

土木・建築合同パネルディスカッション「土木・建築の構造工学を荷重から眺める」

挨拶：渡邊史夫（京都大学、日本建築学会構造工学論文集編集小委員会主査）

進行：古田 均（関西大学）

パネリスト：佐藤尚次（中央大学）、澤田純男（京都大学）

神田 順（東京大学）、高橋 徹（千葉大学 教授）

司会：北川徹哉（名古屋大学）、山田 哲（東京工業大学）

#### ○4月20日

9：00～15：30

土木工学部門、建築学部門各講演

1 5	
幹事会	3 3

## 提 案

シンポジウム「科学技術立国の礎」－日本の“見る技術”を再興する－の開催

1. 提案者 物理学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

### 記

1. 主 催 日本学術会議基礎生物学委員会・物理学委員会・化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会
2. 後 援 文部科学省、理化学研究所（予定）
3. 日 時 平成19年5月10日（木） 9:00 ～ 17:00
4. 場 所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
5. 議事次第

趣 旨：多くの科学や技術は、光・X線・電子線・ニュートリノなどを媒体にして人間の知覚、特に視覚を経由して得られる情報により、発展してきた。殊に近年は、我が国が誇る世界最高の“物を見る技術”が力を発揮してきた。しかし昨今我が国の“物を見る技術”の欧米諸国からの後れが顕わになっている。このことは原子・分子さえ制御しなければならない高付加価値ものづくりの時代にあって、科学技術創造立国で生き抜こうとする我が国の存立基盤をも揺るがしかねない事態を意味する。本シンポジウムでは、有識者が一堂に会し、我が国“見る技術”の先導的地位確立のためには何が必要なのかを討論し、再び世界一の座を取り戻すべく具体的な方策を導き提案する。

プログラム：（演者は予定、演題名は仮題）

・ 挨拶：日本学術会議会長、総合科学技術会議議員、文部科学省局長

第一部：“見る技術”－日本は今も *top runner* か－

- 1) ナノマテリアルを見る技術－何故 *top* から滑り落ちたのか（東京理科大学教授）二瓶好正
- 2) 電場や磁場を見る技術－追い越していったドイツ魂（日立製作所フェロー）外村 彰
- 3) バイオ研究の根底を支える見る技術（京都大学教授）藤吉好則

第二部：見る科学・技術が築く豊かな社会

特別講演「カミオカンデを支えた日本の技術」（東京大学名誉教授）小柴昌俊

- 1) 医療技術で活躍する質量分析（島津製作所フェロー） 田中耕一
- 2) “どこから来て何処へ行くのか”を見る技術（国立天文台台長）観山正見
- 3) ナノマテリアルの土台を支える見る技術（東北大学総長）井上明久

第三部パネルディスカッション：リベンジの方策を問う

（司会）日立製作所フェロー 外村 彰

パネリスト：（理化学研究所播磨研究所長）壽榮松宏仁、（立教大学教授）黒岩常祥、（名城大学教授）飯島澄男、（産業技術総合研究所近接場光応用工学研究センター長）富永淳二。

16	
幹事会	33

## 提 案

公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割」の開催

1. 提案者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議農学基礎委員会 農学分科会  
全国大学附属農場協議会
2. 共 催 (独) 農畜産業振興機構
3. 後 援 文部科学省、厚生労働省(予定)、農林水産省、JA全中、雪印乳業
4. 日 時 平成19年5月11日(金) 13:00～16:30
5. 場 所 日本学術会議 講堂
6. 次 第

## 開催趣旨

平成17年6月に食育基本法が制定され、それを受けて平成18年3月に食育推進基本計画が決定され、現在国をあげて食育に取り組んでいる。関連する各省庁においても、子どもの健やかな成長、メタボリックシンドロームの克服等を目指して、「早寝早起き朝ごはん」、「健康日本21」、食事バランスガイドを活用した「日本型食生活」などを国民運動として展開している。

日本学術会議農学基礎委員会農学分科会に集う研究者はフィールドを研究現場として活動している者も多く、子どもたちの体験学習等の食育にも関わっている。また、全国大学附属農場協議会に加盟する53大学の附属農場、フィールド科学センター等においても、長年の教育・研究活動を通して蓄積された経験をもとに作物の生産や家畜の飼育などの体験を通じた食育活動を展開している。

本シンポジウムにおいては、現在進められている食育の取り組みについて紹介するとともに、国民と連携した今後の推進方向と、大学、特に食料生産から消費までを通じた実践的総合教育・研究を行っている大学附属農場等の食育における果たすべき役割を明らかにする。

開会あいさつ：大杉立（東京大学大学院教授、日本学術会議連携会員、  
日本学術会議農学分科会委員長、全国大学附属農場協議会副会長）

## I 講演（13：10～16：00）

### （1）基調講演

服部 幸應（（学）服部学園理事長）

「食育のすすめ」

### （2）松本 幹治（雪印乳業）

「民間企業における食育の取り組み」

### （3）萬田 富治（北里大学獣医畜産学部教授、全国大学附属農場協議会会長）

「大学附属農場協議会としての取り組みの概要」

### （4）本杉 日野（京都府立大学農学部教授）

「ユーカーチャーデイ」および「おいしい朝食 成績アップ事業」

### （5）中司 敬（九州大学農学部教授）

「芸術文化を取り込んだ先導的な食育と地域農産物のブランド化」

### （6）三枝 正彦（東北大学大学院教授、日本学術会議連携会員、

日本学術会議農学分科会委員）

「題未定」

### （7）高橋 均（東京大学教育学部附属中等教育学校教諭）

「食育に関する大学附属農場等への期待」

## II 討論（16：00～16：30）

閉会あいさつ：萬田 富治（北里大学獣医畜産学部教授、全国大学附属農場協議会会長）

17	
幹事会	33

## 提 案

市民公開講座『見るよろこび、聞くよろこび ―AVDの克服に向けて―』

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会 感覚器分科会  
後 援 財団法人 日本眼科学会  
社団法人 日本耳鼻咽喉科学会
2. 日 時：平成19年8月21日（火）14:00～17:00
3. 場 所：日本学術会議 講堂
4. 開催趣旨

現代社会では、各種情報の重要性が日々に増大しており、視聴覚を中心とする情報交換にかかわる能力の低下は個人やその周囲に甚大な不利益をもたらしている。にもかかわらず、視聴覚を中心とする感覚器障害（Audio Visual Disorder, AVD）の予防や治療さらには感覚器障害者との共生の重要性に関する認識は我が国では極めて低いのが現状である。このような状況を鑑みて、「感覚器障害の克服と支援」の重要性を広く啓発するために市民公開講座として首記シンポジウムを開催しようとするものである。

## 5. 次 第

- (1) 開会の辞（14:00）本田 孔士（日本学術会議第二部会員、同臨床医学委員会委員長、京都大学名誉教授）

## (2) 講 演

司 会 田野 保雄（日本学術会議第二部会員、同感覚器分科会委員長、大阪大学教授）

- ① 14:10 - 14:40 「ダ・ヴィンチと感覚器（仮題）」

加我 君孝（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

- ② 14:40 - 15:10 「人生を豊かに過ごす視力を保持するために（仮題）」

山下 英俊（日本学術会議連携会員、山形大学教授）

15:10 - 15:30 休 憩

③ 15:30 - 16:00 「AVD を抗加齢医学で克服する (仮題)」

坪田 一男 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学教授)

④ 16:00 - 16:30 「よりよい聞こえを求めて—難聴や耳鳴りに対する

新しい治療 (仮題)」

伊藤 壽一 (日本学術会議連携会員、京都大学教授)

質 疑 (16:30 - 16:50)

閉会の辞 (16:50) 金子 敏郎 (日本学術会議特任連携会員、千葉大学名誉教授)

18	
幹事会	33

## 提 案

### 国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部及び委員会に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

### 記

○ 後援する

名 称 等	申 請 者	審議付託先
特別シンポジウム「いじめと環境」 ① 主催： こども環境学会 ② 会期：平成19年3月21日 ③ 場所：建築会館ホール	こども環境学会会長	第二部 第三部
京都大学大学院情報学研究科 公開講座「夢のある情報教育に向けて－ 高校と大学の連携をいかに進めるか－」 ① 主催： 京都大学大学院情報学研究科 ② 会期：平成19年3月31日 ③ 場所：京都大学百周年時計台記念館	京都大学大学院情報 学研究科研究科長	情報学委員会
こども環境学会 2007 大会（横浜）『こども・まち・おとな』 ① 主催： こども環境学会 ② 会期：平成19年4月27日～29日 ③ 場所：横浜市開港記念会館 関東学院大学	こども環境学会会長	第二部 第三部